

# NPO法人 FCゴール



## 地域の横顔

中区は、横浜市（政令指定都市）を構成する18区のうちの一つであり、神奈川県と横浜市の行政機関が集中している中心的な区です。中華街を擁し、歴史的に国際色豊かで、外国人登録人口の割合が高い地域です。2009年の6月には横浜開港150周年を迎えることで近年さらなる賑わいを見せています。

また、古くからスポーツクラブ文化が根付いていた地域でもあり、1868年（明治元年）にクリケットを楽しむ英国商人の手によってつくられた、外国人向けの老舗クラブYC&ACは、現在でも活動を続けています。

## クラブ概要

- 設立年月日：平成19年2月17日
- 会員数：約200名
- 活動種目：サッカー、バレーボール、パタンク、ドッチビー、ユニホッケーなど 合計5種目
- スタッフ数：約15名
- 主な活動施設：吉田中学校  
(倉庫兼クラブハウス)
- 会費：プラクティスクーポン制度（PCカード）参加時に1PCを回収  
天候・健康状態・本人都合などの中止や欠席時は、次回にそのPCが使用可能  
6PCで3000円（銀行振込）
- 予算規模：約3,500,000円

## クラブ対象地域：

### 中学校

大鳥	397
仲尾台	420
富士見	143
本牧	400
港	310
吉田	164

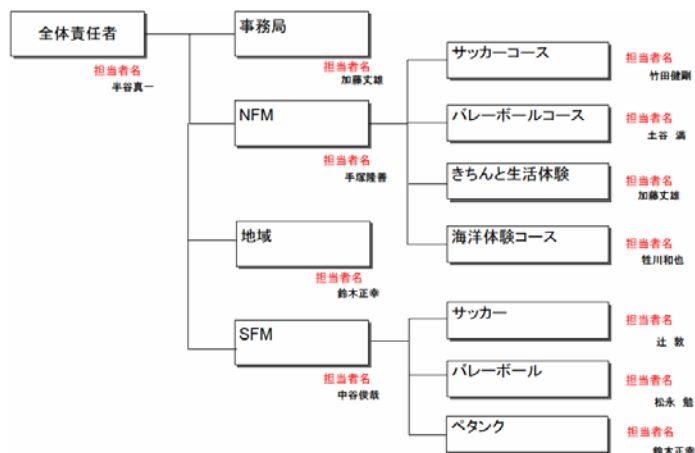
1,834

### 小学校

学校名	生徒数
大鳥	596
北方	500
立野	665
本町	444
本牧	601
本牧南	366
間門	608
元街	465
山元	383
南吉田	551

5,179

## 組織図



## クラブ設立のきっかけ

## 次の世代へ伝えたい！30年のブランクを埋めた再スタート

日本のスポーツやスポーツ文化に対する理解は、近年大きく変わってきました。特に、サッカーのJリーグの繁栄や日本代表の活躍、またワールドカップの日韓共同開催などにより、スポーツを取り巻く環境は大きく改善され進化・進歩を遂げてきました。

しかし、私たちが港・横浜を通じて学んできたスポーツやクラブは、なかなか実現化していません。

今、私たちに出来ることは、スポーツを通じて学んだ数々のことから、次の時代を担う若い人たちに伝えることではないでしょうか。

競技スポーツを求めることに停まらず、時間・空間・仲間の3つの間を通じて理念を伝え、人を育てたい。私たちは、楽しいスポーツで友情を深め、社会に貢献する場を提供したいという有志により、30年近いブランクを埋め、新たにFCゴールを再開することにしました。

感動・感謝・感激を合言葉に、私たちFCゴールとして理想のクラブを求めていきたいと思っています。



# Let's goalcation!!

～スポーツコミュニケーションを通じた  
豊かな地域社会の交流と発展に寄与する～



## 設立年表と活動のポイント

年月	設立準備内容・留意点
—2004年—	
	<p>■FCゴール再結成 ・FCゴールの創始者の教えのもと、本牧山頂公園に集まり、意気投合した数名で、30年ぶりにFCゴールを再結成してボールを追い始める。</p> <p>■活動場所の確保 ・黄色いセーフティーコーン4本とボールだけで、数名の参加者とスタッフが楽しく遊び始めた。なるべくデコボコのない公園や空き地を探し、犬のフンを片付けて場所を確保した。</p> <p>■総合型SCとの出会い ・単にボールを蹴る場を求めてはじめてFCゴールだったが、日本体育協会が展開する総合型クラブ育成推進事業と出会い、社会教育について考える視点が生まれた。</p>
—2005年—	
5月	<p>■平成17年度育成指定クラブ委託事業受託 ■設立準備委員会 ■運営委員会 ■HP開設</p> <p>■プレ事業スタート!! 「きちんと生活体験」 ・横浜市野外活動センターで泊2日の宿泊体験 環境資源局のG30研修やレクリエーションを実施 翌日はお迎えの家族とBBQ</p>
6月	<p>■プレ事業スタート!! 「なかなか何でもスポーツ体験団(北方小コース)」 ・毎週金曜日の夕方を利用して事業を実施(～3月)。 ・種目は、ドッチビー、ユニホッケー、フットサルなど。 ・参加対象は、小中学生とその家族。 ・会費は3,000円(6回分と傷害保険料含) ・毎回30～40名の参加があった。</p> <p>「なかなか何でもスポーツ体験団(吉田中コース)」 ・第1・3土曜日の午後を利用して事業を実施(～3月)。 ・内容は、初めてボールを蹴る小学生のためのサッカー。 ・参加対象は、小学生男女。 ・会費は3,000円(6回分と傷害保険料含) ・毎回10～15名の参加があった。</p> <p>■横浜開港祭クラブPRブース出店 ■リーフレット作成</p>
7月	<p>■日本丸海洋体験イベント ・横浜港を利用して家族で海洋スポーツを体験。 ・参加料1500円。</p> <p>■運営委員会</p>
8月	■設立準備委員会
9月	<p>■プレ事業スタート!! 「なかなか何でもスポーツ体験団(本町小コース)」 ・第1・3土曜日の午後を利用して事業を実施(～3月)。 ・内容は、初めてボールを蹴る小学生のためのサッカー。 ・参加対象は、小学生男女。 ・会費は3,000円(6回分と傷害保険料含) ・毎回10～15名の参加があった。</p> <p>「なかなか何でもスポーツ体験団(大鳥小コース)」 ・第2・4土曜日の午後を利用して事業を実施(～3月)。 ・内容は、初めてボールを蹴る小学生のためのサッカー。 ・参加対象は、小学生男女。 ・会費は3,000円(6回分と傷害保険料含) ・毎回10～15名の参加があった。</p> <p>「なかなか何でもスポーツ体験団(サルサコース)」 ・毎週金曜日の日中にスポーツセンターを利用して事業を実施(～3月)。 ・参加対象は成人男女。 ・会費は1回500円。</p> <p>■運営委員会</p>
10月	<p>■スポーツレクリエーションフェスティバル ■委託事業中間報告書の作成・提出</p>
12月	<p>■設立準備委員会 ■運営委員会</p>



### ポイント1「クラブづくりははじめの一步」

気軽に手をあげました!!

- ①サッカーがしたかった。
- ②自発的であった。
- ③行いたいときに行い、行いたくないときには行わないという気軽さ。

スポーツには自分が競技したり、観戦したり、サポートしたりそれぞれの楽しみがあります。

競技として勝敗や記録を主の目的として行う場合はチャンピオンスポーツ、遊戯的な要素を持つ場合(楽しむ事や体を動かす事を主の目的として行う場合)はレクリエーションスポーツと呼ぶこともあります。



スポーツは、気晴らしをする、遊ぶ、体を動かす、楽しむという意味を表して、この本質追求の延長線上で気軽に手を挙げたことです。  
楽しくなければ誰も続きません。



### ポイント2「クラブづくりの根幹にある使命」

スポーツに対する疑問?!

- ①競技重視のジュニアスポーツに疑問
- ②スポーツする場所、機会に疑問
- ③ジュニア期のスポーツに疑問

楽しさの中で、何を求めるかが重要です。プレイ、ゲーム=全て遊びです。ルール、マナー、モラルなどスポーツの中で何を学ぶかが大切だと思います。私たち大人は、スポーツ振興計画にもある「地域におけるスポーツ環境の整備充実方策」を追求する義務があります。

1月	<b>■ニューイヤーフェスタ2006</b> ・吉田中学校を会場に、親子サッカー、サルサ、ドッチビー、ユニホッケー、フットサルなどの体験イベントを実施。揚げ玉うどん・きつねうどんが振舞われた。	
2月	<b>■設立準備委員会</b> <b>■運営委員会</b>	
3月	<b>■委託事業決算報告書の作成・提出</b>	
4月	<b>■プレ事業スタート！！</b> <b>「なかなか何でもスポーツ体験団(吉田中コース1)」</b> ・第1・3土曜日の夕方を利用して事業を実施(～3月)。 ・内容は、中高生のためのサッカー。 ・参加対象は、中高生男女。 ・会費は3,000円(6回分と傷害保険料含) ・毎回20名前後の参加があった。	
	<b>「なかなか何でもスポーツ体験団(吉田中コース2)」</b> ・毎週木曜日の夕方を利用して事業を実施(～3月)。 ・内容は、初めてボールを蹴る社会人のためのサッカー。 ・参加対象は、社会人男女。 ・会費は3,000円(6回分と傷害保険料含) ・毎回20名前後の参加があった。	
5月	<b>■プレ事業スタート！！</b> <b>「きちんと生活体験」</b> ・横浜市野外活動センターで1泊2日の宿泊体験 環境資源局のG30研修やレクリエーションを実施 翌日はお迎えの家族とBBQ	
6月	<b>■プレ事業スタート！！</b> <b>「なかなか何でもスポーツ体験団(本町小コース)」</b> ・第1・3土曜日の午後を利用して事業を実施(～3月)。 ・内容は、初めてボールを蹴る小学生のためのサッカー。 ・参加対象は、小学生男女。 ・会費は3,000円(6回分と傷害保険料含) ・参加者は20～50名と徐々に増加した。	
	<b>「なかなか何でもスポーツ体験団(大島小コース)」</b> ・第2・4土曜日の午後を利用して事業を実施(～3月)。 ・内容は、初めてボールを蹴る小学生のためのサッカー。 ・参加対象は、小学生男女。 ・会費は3,000円(6回分と傷害保険料含) ・毎回10～20名の参加があった。	
	<b>「なかなか何でもスポーツ体験団(北方小コース)」</b> ・毎週金曜日の夕方を利用して事業を実施(～3月)。 ・内容は、フエアサッカーとコーディネーション運動。 ・参加対象は、小中学生とその家族。 ・会費は3,000円(6回分と傷害保険料含) ・毎回10～15名の参加があった。	
	<b>■横浜開港祭クラブPRブース出店</b>	
8月	<b>■N&amp;Nフェスティバル(吉田中)</b> ・クラブ会員及び近隣住民を対象にサッカーで地域交流をするイベント。サッカーをした後はカキ水を食べる。参加料は無料。 <b>■地区懇談会場でクラブPR</b>	
9月	<b>■親子ドッチビー大会(立野小)</b> ・立野小はまっこおやじの会と共催で、学校区の親子を対象にドッチビー大会を実施。参加料は無料。 <b>■設立準備委員会</b> <b>■運営委員会</b>	
10月	<b>■委託事業中間報告書の作成・提出</b>	
11月	<b>■N&amp;Nフェスティバル(吉田中)</b> ・クラブ会員及び近隣住民を対象にサッカーで地域交流をするイベント。サッカーをした後は豚汁を食べる。参加料は無料。 <b>■設立準備委員会</b> <b>■運営委員会</b>	
12月	<b>■西海カップ(YG&amp;AC)</b> ・FCゴール創始者の西海氏を偲んでクラブ員によって実施されるサッカー大会。 <b>■設立準備委員会</b>	

1月	<b>■ニューイヤーフェスタ2007</b> ・吉田中学校を会場に、ミニサッカーで地域交流をしてうどんを食べる。参加料は無料。 <b>■設立準備委員会</b> <b>■運営委員会</b> <b>■会則の改定</b> <b>■法人格取得の検討</b> <b>■クラブ広報パンフレット作成</b>	
2月	<b>■設立総会</b> ・総合型地域スポーツクラブとして新たなスタート ・NPO法人格を取得予定	
	<b>■次年度事業説明会</b> ・次年度の事業説明会を3つの会場で開催し会員・地域住民・学関係者と意見交換を実施。	
	<b>■FCゴールハウス2007設置</b> ・吉田中学校内に、クラブハウス兼備品倉庫が設置。	

### ポイント3「学校とクラブの関係づくり」

#### 学校・部活動支援

クラブが活動する会場を探すのも最初は、とても苦労しました。学校・コミュニティハウスからは断られ、不信感を抱いたこともありました。

公園や空き地を利用した活動が続く中、学校から部活動支援の要請を受けました。これによりクラブは学校の扉を少し開くことができました。

部活動支援を始めて、子どもたちの運動能力の低さに驚愕し、ジュニア期の運動能力開発に疑問を持ち始めました。さらに、OBやOGがスポーツを続けられる場の必要性を感じるようになり、社会教育としてのスポーツの必要性や場所の確保を訴えるようになりました。

部活動支援によって学校関係者とふれ合えるようになりました。学校教育の限界と直向に取り組む教師たちとの出会いもクラブにとって大きなものでした。

学校にだけの教育を求めるには限界があります。家庭・地域との連携が大切です。小中一貫教育が叫ばれていますが、クラブにはもっと長いスパンで考えるビジョンが必要です。ゆりかごから墓場までとは行かなくても総合型地域スポーツクラブは将来的にそこを目指すべきだと思います。

### ポイント4「文部科学省委託事業の受託」

#### スパイラル現象

また、もうひとつの転機になったのは、文部科学省が日本体育協会を通じて展開している育成指定クラブ事業を受託したことです。文科省委託事業という看板を下げて、「なかなか何でもスポーツ体験団」という、楽しさ・仲間・自発性を大切にしたい事業を展開し始めました。

すると、少しずつですが、学校や地域からクラブを見る目が変わってきたのです。クラブへの参加者や協力者も少しずつ増え、地域サークル、子供会、おやじの会などから協力の要請を受けるようになりました。クラブの活動理念が好循環で理解され始めています。



これまでずっと、子どもたちを魅了し続けてきたもの。それは、たんなる遊びでありながら、いつも仲間との語らいの間であり、空間、時間でした。ここにあるのは、総合型地域スポーツクラブ「FCゴール」です。

4つのコミットメントを掲げ、スポーツコミュニケーションを通じた豊かな地域社会の交流と発展に寄与します。

- ①スポーツを楽しみます。
- ②仲間を大切にします。
- ③文化・歴史を学びます。
- ④子どもと大人が共に成長し続けます。

サッカークラブ活動、なかなか何でもスポーツ体験団、スポーツ少年団、きちんと生活体験などを活動の柱にして、これまでの枠組みを超えたチャンス子どもたちに与え、さらにそこに参画する大人も共に成長しています。

行政・学校との連携が評価され、待望のFCゴールハウス（兼備品倉庫）が中学校の敷地内に設置されました。

FCゴールは、スポーツの新しい姿と仕組みを、学校・行政・地域のみならずと一緒に考え、チャレンジし続けます。

## 設立して良かったこと

### 学校との新たな道を開くクラブ

子どもたちにとって遊びは生活そのものです。石ころひとつで一日中楽しく、おなかが減るまで夢中で遊ぶことだってできるわけです。

私たちFCゴールはsportの語源にあるような気晴らしをする、遊ぶ、体を動かす、楽しむなどの各種活動を続けながら、自分の気持ちで行動できる「クリエイティブでたくましい人間」になってくれることを参加するすべてのファミリーメンバーに強く望んでいます。

FCゴールの活動を見守ってきた市議員さんからは、「これからも、FCゴール、学校、地域、行政が協力しながら、多くの子どもたちの楽しさを見出す場、そこで学んだ子どもたちがボランティアとして参加できる場として、また保護者も積極的に関わり自らも学ぶことができる場として、地域の中での活動の場を広げていってほしい。」と期待が寄せられています。

FCゴールが活動拠点としている中学校の校長先生は、「部活動の指導に始まった総合型地域スポーツクラブFCゴールは、本校における4年の実績と創設の精神とビジョンにおいて、学校や地域と共に子どもの健全育成に貢献できる組織であると言えます。子どもの意欲を喚起するのは学校だけでなく、家庭や地域でもその役割は大きいものがあります。家庭・地域はもちろんですが、FCゴール等での活動を通して様々な“人とのかかわり合い”を持つことができていることは大切なことです。」とクラブ通信にメッセージを寄せています。FCゴールの活動が公立学校との関係に新たな道を開きます。



## 今思えば、失敗したと思うこと

### 常に挑戦しています！！

ここまでFCゴールは、感動・感謝・感激を合言葉に、FCゴールとしての理想をひたすら追い求めてきました。総合型クラブの創設を目指していた頃は感じ得なかった責任を各理事者が今やっと認識し始めています。

ところで、エジソンがランプを発明するのに5000回も失敗したそうです。その5000回の失敗で、「この組み合わせはうまくいかな」ということを発見したと語っています。

そう、失敗は学びと考える。つまり、経験には「成功の経験」と「学びの経験」の2種類はないと考えます。

## 人生に失敗はない。成功か、学びか… だとしたら挑戦しなければ損です！

今日のはじめて総合型クラブに出会った方や、総合型クラブの設立を目指して奮闘している方みなさまが、素晴らしい経験と大きな挑戦をされ、たくさんの成功と多くの学びがありますように。

クラブマネジャー 半谷 真一